

平成30年度第2回淡路市子ども・子育て会議（第16回） 会議録

開催日：平成31年3月12日（火）14：00～16：00

開催場所：市役所2号館3階大会議室6・7

出席委員：15名 欠席委員：5名

傍聴人：なし

開会あいさつ 伊木会長 より

議事1 特定教育・保育施設等の利用定員の設定について

説明：「資料1 特定教育・保育施設等の利用定員の設定について」

<委員からの意見> なし

報告事項1 平成30年度淡路市子ども・子育てに関するニーズ調査結果速報

説明：「資料2 平成30年度 淡路市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果速報」

「資料3 平成30年度 淡路市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果速報
【別冊】」

「資料4 今後のスケジュール」

<委員からの意見>

委員 前回のニーズ調査をもとに、子育て世代包括支援センター「おむすび」の開設が実現した。日々利用者が増えている。一方、津名や一宮の方は来やすいが、他の地区の方は来にくいかもしれない。他の場所にも同様の施設があればより一層利用しやすいとの声をいただくことが多い。

会長 北淡などは利用しにくいのか。

委員 北淡の方からは利用しにくいと思う。

委員 地区によって住んでいる人の状況が違うと思う。北淡の方は移住者が多くなく、祖父母のサポートを得られる方が多いのでわざわざセンターまで行かないように思う。また、情報が入りにくいこともあり、後になってそういうものがあつたのかと気付くことが多い印象がある。

会長 地域別の傾向は調べるのか。

事務局 クロス集計を予定している。

委員 実態を知って事業を決めていくのはいいことだと思う。地元では子供のインフルエンザの時には祖父母がサポートする人が多いが、島外から移住してきた方で、近くに子どもを見てもらえる親戚が誰もいない方もいらっしゃるの
で、そのような方に情報が行き渡るように努めないといけない。

会長 緊急時に祖父母に見てもらえるという回答が多い一方、誰もいない人もいる
という実態も重要。

委員 自分の友人も緊急時には孫のために遠方まで駆けつけている。そういう人が
すぐに見つからない若い人は大変だと思う。

会長 子供の病気などの際、母親が休むことが多いが、病後児保育が始まったこと
による変化はここに入っているのか。

事務局 時期的には病後児保育が開始されているが、どこまで周知されているかによ
ると思う。

委員 以前に比べると子育て支援施策が広がった印象があり、子育てしやすくなっ
たと思う。ファミリー・サポート・センターは今サービスが停まっているの
か。

委員 高いということと、住民主体の活動なので登録者が多くないということもあ
ると思う。

委員 なかなか増えない。

委員 祖父母がいない人や、東浦など移住者の多いところではファミリー・サポー
ト・センターを利用するしかない場合もあると思うが、事前に手続きが必要だ
ったりして使いにくさがあると思う。数時間だけ預けるようなものがあつた
方が良い。

会長 家庭教育に関する学級は認知が少ないが周知が必要では。

事務局 家庭教育に関する学級とはどういうものか。

事務局 今本市でやっている事としてこれと示せるものはなく、今後の希望として回
答してもらっていると考えてほしい。育ちについては個別相談で対応してい
るが、ニーズは高いので検討していきたい。また、ペアレントトレーニングプ
ログラムのようなものもあることはある。実情に応じた対応をしたい。

会長 愛着形成などに関する講座のイメージか。

事務局 親への教育という形だと思う。

委員 広い意味で、自分は利用したことがあると感じて回答されたのかと思う。

委員 児童館については市内に無いのではないか。明石市まで出向いて利用した事
例も聞いている。

事務局 淡路市内にはない。このアンケートが国の例に沿ったものなので淡路市にあ
るものもないものも含まれている。思い違いで回答されている可能性もある
が、直感的に素直に回答していただいた結果と見ている。

- 会 長 短時間勤務制度が取りにくい雰囲気について、事業者としてのご意見はあるか。
- 委 員 そういった雰囲気は実際あると思う。自社でも 6 時間勤務の設定があり、過去には利用者が数名あったが、現場では誰かが短時間勤務となると他の誰かがフォローしなくてはならず、制度はあっても現場では推奨できていない状況にあると思う。子供の病気への対応として自社でもファミリーサポート休暇を 2 日間有給で取り入れている。母が休む日数 10 日との回答に対して足りていないとも思うが、実際の利用者はそれほどでもない。認知度や、取りにくさもあるのではないかと思う。
- 会 長 その他の記載内容はたくさん書かれているのか。
- 事務局 自由記述については次回に結果をお示ししたい。
- 副会長 満足度は前回より伸びたが、もう少し伸ばすにはどうすれば良いか。ニーズを求めれば上はいくらでもあるが、今あるサービスをきちんと知ってもらうことがポイントだと思う。
- 会 長 今回のアンケートは前回よりも書きやすくなったが、実際これが何の事業を指すのかわかりにくいところもあった。
- 副会長 子育てハンドブックはもっと利用していきたいものだと感じる。
- 事務局 この子育てハンドブックの配布状況はどのようなものか。
- 事務局 各保育所などに配布、子育て世代包括支援センターや公共施設、母子手帳の交付時、転入手続きなどで配布している。また、ホームページでも内容を公開している。
- 委 員 子育て学習センターでも配布していて、説明もしている。
- 副会長 転入してきた人などが、一時預かりで電話してくる際、この冊子を持っていればもっと情報が得られて良いのと思うケースもある。そういう人に届いていないようにも感じる。良い冊子なので、ぜひ広めてほしい。
- 委 員 自施設にも置いており、移住希望の方に説明したりしているが効果は高いと感じる。
- 会 長 役立つものなので、活用してほしい。
- 委 員 学校の統廃合により、子どもの遊び場や遊ぶ時間が減っている。バスの時間を伸ばすなどして、少しでも遊べる時間を作れないかと思う
- 委 員 自分の地域では校庭を使えるが、スクールバスの時間が決まっていた遊ぶ時間に限りがある。
- 委 員 遊び時間が物足りないだろうと思うが、親が送り迎えすることもできない。月 1 回でも良いので、遊ぶ時間を確保してやりたい。
- 委 員 学校によってはやっているかもしれない。
- 委 員 北淡は範囲が広いので移動に時間がかかり、タイトになりやすい。

委員 放課後子ども教室も、一旦帰宅する必要がある。バス通学の子だと途中下車して行くことができないので利用が難しく、送りが必要になる。途中下車できるようにしないと子どもの活動がしづらい。地域性も含めて検討してほしい。

会長 その状況と、アンケートで放課後の過ごし方に「自宅」が多い結果となっていることが一致していると思う。

委員 一宮は下校後そのまま参加している。

委員 子ども教室は、学童に入れない子どもなどいろんな子どもが交わるよう、連携してくたら良いと思う。小学生の遊ぶ場の少なさが、小学生の満足度がそれほど上がっていないことにつながっているのではないかと思う。

会長 地区によってサービスが違う状況もあるのか。資料2「速報」の14ページから課題が見えるかもしれない。

事務局 部署が違うので本日のご意見を申し伝える。

委員 一時預かりを利用されるのはどのような人なのか。

副会長 就学前のパートで週2日勤務されているといった方や、里帰り出産などの人が利用されている。ニーズはあるが思うように受け入れができず、乖離がでている。

委員 園の行事などの際は一時預かりをしてもらえないこともある。

委員 回収率が8~9割程度あるが、未提出の方も含めると、このデータより悪い傾向が出るかもしれない。労働時間が長く、10時まで働く厳しい状況の方もいる。祖父母がいないと厳しいと思う。子どもの過ごし方がテレビのようになっているのでは。

委員 事業の認知は多くて5割程度で、もっと周知してほしい。いざという時に知りたいことがわかることが大事。インターネットなど活用してほしい。

委員 速報資料18ページで普通と答えている方で年取などの指標を含めて検討できたら良いのではないか。

委員 また、結果速報より、満足度をあらわす指標として「普通」という文言が使われているが、回答者によって捉え方は変わってくるのではないか。具体的な表現が必要かと思う。

事務局 文言については、前回の調査票のフォーマットを踏襲している。満足度を調査する項目は、回答者の調査票には「1~5」の番号のみで示している。

委員 子ども的人数について、希望は3人だが実際には2人という回答が多く、実際保育所でも2人きょうだいが多い。希望の人数に満たない理由のところが対応でき、3人きょうだいになってくれたら子どもが増えるのではないかと思う。どういう支援がほしいか聞いていけば、詳しい要望が見えるのではないか。

委員 自由記述のところに本当の声があると思う。こうした調査や計画の内容は、社

- 協でも計画作成に関わる職員はよく理解しているが、職員全員が内容を共有しているわけではない。全員に目を通してもらうことが大事だと思う。
- 会 長 今回の報告書も活用していただけたら良いと思う。
- 委 員 こども園でも、育休明けすぐ時短勤務で0歳児を預けるケースが増えている。時短勤務に理解ある企業が増えていると感じる。もっと利用できるようになれば良いと思う。
- 委 員 病後児保育の対象者はどのようになっているのか。
- 事務局 生後6か月から小学6年生までを対象としている。
- 副会長 どういう状態の子の利用を想定しているのか。
- 事務局 こども園は医療機関でないため、インフルエンザを例にとると、解熱後、医師の診断で利用可否の判断となる。
- 委 員 子育て支援の満足度について、他市との比較はできるのか。
- 事務局 他市の結果はまだ公表されていないので後になると思う。
- 委 員 自由記述についてはどのように説明いただけるのか。
- 事務局 今後の検討課題である確保方策などを補完するものとしてお示しする予定。また、自由記述については、今後の市としての事業につなげていく情報として活用していきたいと考えている。議題の中でどの程度取り上げるかは未定。
- 会 長 自由記述については淡路市独自のものとして活用いただきたい。

その他

- ・病後児保育事業の運営状況について
現在の利用登録者は11名（在園児4名、他園児2名、平成31年度新入園児5名）
利用実績については、1月に延べ人数2人（在園児1名が2日間利用）と3月に1人
- ・仮屋保育所の認定こども園への移行について
2号認定のニーズが増加しているため、認定こども園への移行は延期で時期は未定。
- ・次回の子ども・子育て会議は6月頃の予定。

開会あいさつ 三浦副会長 より

以 上